

2000年3月15日

第10回 モニター電話調査 報告書

(2000年3月3日~5日調査)

調査の設計

概要

単純集計

調査の結果

調査票

The logo for NAPOR, consisting of the letters 'NAPOR' in a bold, sans-serif font. The letter 'O' is stylized as a white circle with a black outline, positioned between the 'A' and 'R'.

長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

調査の設計

調査の目的

小淵内閣は、景気回復への足取りがなかなか定まらない中で、安定多数の与党を背景にしながらも、金融担当閣僚の辞任や警察不祥事など一連の逆風にさらされ、解散・総選挙への読みが揺れている。

県下では秋に知事選も予定され、2000年は県民の選択が21世紀の日本や長野県の方向性を示す重要な節目にあたる。国会の憲法調査会の論議スタートなど、戦後の流れを総括する動きも高まる一方で、失業や財政赤字など直面する問題の脱出口はみえにくい。

こうした手詰まり状況下で、県民は政治の現況をどう評価し、どんな期待感を持って見つめているのか、当協会のモニターを対象に探る。

調査の設計

調査方法 当協会の登録モニターに事前に質問票を送り、電話で回答を聞く方式。

【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に政治意識調査を実施。その際、追跡調査に協力することを了承した人たち678人を対象に、選挙直後の7月に「参院選の投票行動」調査を行った。

これを「第1回モニター電話調査」と位置づけ、それ以降も継続的に調査に応じることができる人たちを県下有権者の“縮図”となるように男女別、年代別、選挙区別などの比率で対象者を選定。96年2月に第2回、同年8月に第3回調査を実施した。それ以降、年2回ずつ定期的に続行しており、今回は第10回にあたる。この間、若干の補充を行い、現在の登録モニターは500人。

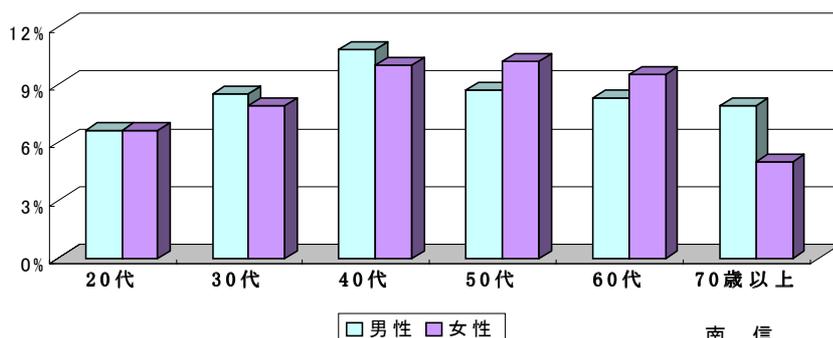
調査期間 2000年3月3日～5日

有効回収数 482人（96.4%）

サンプルの内訳

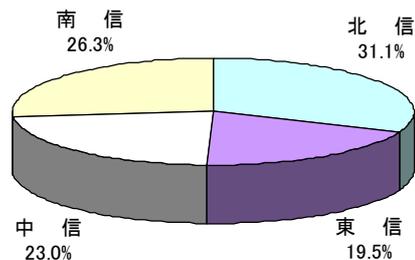
【性別と年代】

	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
男性	245	32	41	52	42	40	38
	50.8%	6.6%	8.5%	10.8%	8.7%	8.3%	7.9%
女性	237	32	38	48	49	46	24
	49.2%	6.6%	7.9%	10.0%	10.2%	9.5%	5.0%



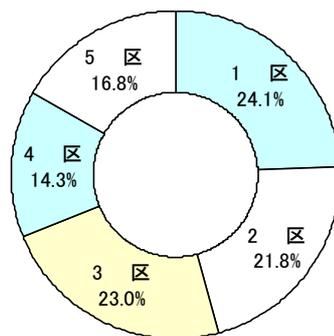
【地域別】

北 信	150	31.1%
東 信	94	19.5%
中 信	111	23.0%
南 信	127	26.3%



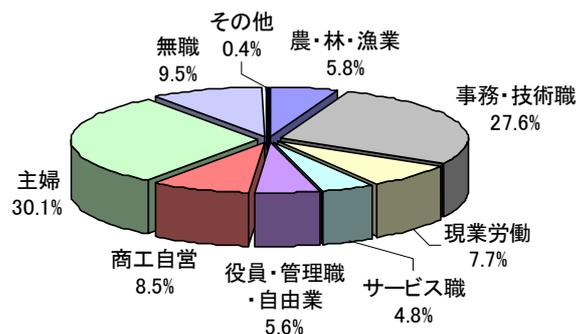
【選挙区別】

1 区	116	24.1%
2 区	105	21.8%
3 区	111	23.0%
4 区	69	14.3%
5 区	81	16.8%



【職業別】

農・林・漁業	28	5.8%
事務・技術職	133	27.6%
現業労働	37	7.7%
サービス職	23	4.8%
役員・管理職・自由業	27	5.6%
商工自営	41	8.5%
主婦	145	30.1%
無職	46	9.5%
その他	2	0.4%



概要

解散・総選挙含みの動きが加速される中で、国政に対する不満感が再び増勢に転じ、合わせて8割にものぼり「全く不満」だけでも3割に達した。今国会冒頭の衆議院定数の削減をめぐる与野党の攻防については、半数が削減に賛成してはいるものの、与党の単独審議、野党の審議拒否のいずれにも7割が「よくない」と批判している。

政治に対する不満に相応するかたちで、小淵内閣の評価もきびしくなり、支持が2割を割ったのに対して、不支持が4割半ばに増えた。支持の理由は「政策に期待」「首相の政治姿勢」が上位。不支持の理由では「政策に期待できない」「自自公連立」だった。最優先課題は「景気・雇用」がトップに掲げられた。

自自公連立による巨大与党の国会運営が進められる中で、4割が「望ましい連立はない」という判断を下した。選択肢のうちでは「自民党を除く民主党中心の連立」がもっとも多くを占めたが、現在の自自公の組み合わせには、1割台の共感しか寄せられていない。また、今後の政党の再編成については、5割近くが期待していない。

政党支持率は、民主党(22.2%)が自民党(21.0%)から首位を奪い返した。

3位以降は共産党、公明党、社民党、自由党の順。前回よりも増えたのは民主党、共産党、公明党。支持政党なしはやや減り、4割を割っている。

次の衆議院の時期は「早い機会に」と「急ぐ必要はない」が同数で分かれた。手直しの動きが出ている選挙制度には「以前の中選挙区制」がよいという人が4割を超え、現行制度の支持は2割に届かない。

今国会から始まった「憲法調査会」の審議について「まず議論したうえで、改正の是非を判断するのがよい」という人が4割を占めた。いわゆる“論憲”は必要という立場は、護憲・改憲の人も含めて8割を超える。

日本の将来の不安は「財政赤字の増大」がトップに急上昇し「景気の行方」「福祉の低下」「犯罪の増加」「環境破壊」と続く。

単純集計

「今の政治に不満」急増、約8割に達す

問1 あなたは、国民の政策の期待や信頼に照らしてみても、今の国の政治に満足していますか。(SA)		
大いに満足	2	0.4%
どちらかといえば満足	51	10.6%
どちらかといえば不満足	236	49.0%
全く不満足	148	30.7%
どちらともいえない	45	9.3%

定数削減 - 5割支持 審議は与野党双方に批判

問2 あなたは、衆議院定数削減をめぐる今国会冒頭の審議や運営について、どう受けとめましたか。		
問2-A 衆議院の比例代表定数の20議席削減(SA)		
評価する	249	51.7%
評価しない	99	20.5%
なんともいえない	134	27.8%
問2-B 絶対多数の「自自公」与党の単独審議(SA)		
よい	36	7.5%
よくない	360	74.7%
なんともいえない	86	17.8%
問2-C 少数野党の審議拒否(SA)		
よい	28	5.8%
よくない	346	71.8%
なんともいえない	108	22.4%

政治の課題「景気・雇用」半数が最優先

問3 あなたは、国の政治が取り組むべき課題で、次の項目の中で最も重要なことは何だと思えますか。(SA)		
景気回復・雇用確保	253	52.5%
行財政の改革	94	19.5%
安定的な年金・介護	80	16.6%
教育の見直し	48	10.0%
安全保障の確立	7	1.5%

内閣不支持、再び増えて4割半ば

問4 あなたは、小淵内閣を支持しますか。(SA)		
支持する	84	17.4%
支持しない	224	46.5%
なんともいえない	174	36.1%

支持する理由「政策に期待」トップ持続

問5 (問4で「支持する」とお答えの方に) 支持する理由はなんですか。2つ以内(MA)		
政策に期待しているから	36	42.9%

首相の政治姿勢が好ましいから	31	36.9%
自民党中心の内閣だから	26	31.0%
ほかに適当な人がいないから	26	31.0%
自・自・公の連立内閣だから	19	22.6%
小淵さんが首相だから	10	11.9%
なんとなく	7	8.3%

不支持「政策に期待できない」7割突破

問6（問4で「支持しない」とお答えの方に）支持しない理由は何でしょうか。2つ以内（MA）		
政策に期待できないから	162	72.3%
自・自・公の連立内閣だから	131	58.5%
首相の政治姿勢が好ましくないから	68	30.4%
自民党中心の内閣だから	36	16.1%
小淵さんが首相だから	10	4.5%
ほかに適当な人がいるから	9	4.0%
なんとなく	4	1.8%
その他	8	3.6%

改憲の是非「まず調査会で論議して」4割

問7 あなたは、今の国会で始まった「憲法調査会」の論議と憲法改正との関係について、どうお考えですか。（SA）		
改正に賛成だから、論議は必要だ	107	22.2%
改正に反対だから、論議は必要ない	19	3.9%
いずれ改正を考える時が来るだろうが、今は論議の必要はない	29	6.0%
今は改正を考える時ではないが、論議の必要はある	78	16.2%
まず論議したうえで、改正の是非を判断するのがよい	208	43.2%
なんともいえない・わからない	41	8.5%

「望ましい連立はない」前回4%から40%へ

問8 あなたは、本来どんな政権が望ましいと考えていますか。（SA）		
自民党を除く民主党中心の連立	78	16.2%
自民党と民主党の連立	61	12.7%
現在の自民党・自由党・公明党の連立	58	12.0%
自民党単独	50	10.4%
望ましい連立はない	192	39.8%
その他	33	6.8%
なんともいえない・わからない	10	2.1%

次の衆院選「早く」「急ぐ必要ない」伯仲

問9 あなたは、次の衆議院選挙（総選挙）の時期について、どう思いますか。（S A）		
なるべく早い機会に	241	50.0%
そんなに急ぐ必要はない	239	49.6%
なんともいえない・わからない	2	0.4%

衆院選制度「以前の中選挙区制」4割支持

問10 衆議院の選挙制度のあり方について、あなたはどのような制度が好ましいですか。（S A）		
現行の小選挙区・比例代表制	77	16.0%
以前の中選挙区制	202	41.9%
別の新しい制度	96	19.9%
なんともいえない	107	22.2%

民主22%でトップ返り咲き 自民に1.2ポイント差

問11 あなたは、どの政党を支持していますか。（S A）		
民主党	107	22.2%
自民党	101	21.0%
共産党	34	7.1%
公明党	24	5.0%
社民党	18	3.7%
自由党	16	3.3%
その他の政党	2	0.4%
支持する政党はない	180	37.3%

支持政党の評価「現実性」 続く「一貫性」

問12 （問11で1～7とお答えの方に）あなたは、支持する政党のどんな点を評価し、期待していますか。（M A）		
政策の現実性	99	32.8%
主義主張の一貫性	89	29.5%
長期的な視点	80	26.5%
安定感・頼りがい	61	20.2%
清潔なイメージ	56	18.5%
革新的な姿勢	54	17.9%

中道的な姿勢	38	12.6%
開かれた党運営	36	11.9%
党首の魅力	31	10.3%
保守的な姿勢	21	7.0%
なんともいえない・わからない	1	0.3%

無党派層の評価「政治不信の現われ」群を抜く

問13 あなたは「支持政党なし」について、どのようにお考えですか。2つ以内（M A）		
政治・政党への不満、不信の現われ	320	66.4%
政治に対して無関心・無責任	173	35.9%
政党がもっとがんばれば減る	119	24.7%
棄権が多く投票率を下げる一因	96	19.9%
個人中心の選挙が背景にある	80	16.6%
政治を不安定にさせている	61	12.7%
自由に1票を行使している	45	9.3%
政治に関心の高い人が多い	15	3.1%
選挙を面白くさせる波乱要素	13	2.7%
その他	6	1.2%
なんともいえない・わからない	2	0.4%

2年前の参院選当時 民主と自民「5.5」差

問14 あなたは、98年7月の参議院選挙の当時は、どの政党を支持していましたか。（S A）		
民主党	133	27.6%
自民党	106	22.0%
社民党	37	7.7%
共産党	36	7.5%
公明党	28	5.8%

自由党	23	4.8%
その他の政党	5	1.0%
支持する政党はない	75	15.6%
覚えていない	38	7.9%
不明	1	0.2%

支持政党のほかに増えてほしい - 民主、社民、共産の順

問15 あなたは、支持する政党のほかに、次の総選挙で増えてほしいと思うのは、どの政党ですか。(SA)		
民主党	91	18.9%
社民党	58	12.0%
共産党	32	6.6%
自由党	27	5.6%
自民党	26	5.4%
公明党	7	1.5%
その他の政党	5	1.0%
とくに増えてほしい政党はない	236	49.0%

政党再編成「期待しない」5割に迫る

問16 あなたは、政党の再編成が今後も行われることを期待しますか。(SA)		
期待する	122	25.3%
期待しない	234	48.5%
なんともいえない	125	25.9%
不明	1	0.2%

日本の将来の不安「財政赤字」一挙にトップ

問17 日本の将来を考える時、とくに心配したり、不安に思うことがありますか。5つ以内(MA)		
ふくれる財政赤字	253	52.5%
景気の行方	207	42.9%
社会保障・福祉の水準低下	205	42.5%
犯罪の増加	197	40.9%

地球環境・自然破壊	193	40.0%
高齢化と少子化	187	38.8%
官僚依存型の社会の体質	166	34.4%
雇用の不安	162	33.6%
モラルの低下	147	30.5%
青少年の教育	143	29.7%
不安定な政治	138	28.6%
経済の国際競争力の低下	121	25.1%
進まない行政改革	106	22.0%
国の安全保障	72	14.9%
エネルギー不足	61	12.7%
女性の地位向上の遅れ	15	3.1%